



101号 令和6年3月25日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



修了式 式辞

式 辞

阿賀っ子全員、今の学年を本日無事修了することができました。本当におめでとうございます。この後、担任の先生から皆さん1人1人に手渡していただく修了証をじっくり見てください。それを見たとき、どんな気持ちが湧いてくるのでしょうか？

今、ここがウクライナだったら？ここがトルコやシリアだったら？と考えてみてください。
ウクライナ侵攻による死者は約50万人。昨年、トルコ・シリアで発生した大地震の死者は6万人。この他、事故や病気、寿命も含め、全部合わせると、世界中で、毎日毎日約20万人、国内だけでも約4千人が亡くなっている計算になります。こんなにたくさんの方々が毎日毎日亡くなっているのです。

今、こうして、修了式を迎えられることは、実は当たり前ではなく、それどころか、今、自分の命がここにあることさえも、決して当たり前ではないということです。

そういうことがいつも意識できるようになると、感謝の心が正真正銘の感謝の心になります。

朝の見守りの方に、「おはようございます。いつもありがとうございます。」が言えていること。

歩道や公園にごみを捨てないこと。

廊下を走らないこと。

人をいじめないこと・・・。

小さなこと、大きなこと、関係なく人の道はずれない生き方ができるのは、感謝の気持ちがあるからこそです。

そういう生き方を自分はこれまでしようとしてきたのか？この1年間はどうかだったのか？できたのか？できなかったのか？

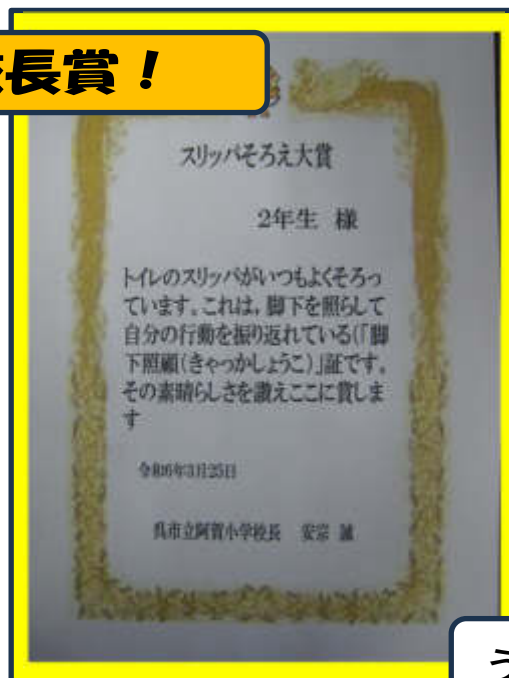
今日は、そのことをあらためてしっかり振り返る1日にしてほしいと思います。

これまで1年生で約2千5百日、5年生で約4千日を生き抜いた阿賀っ子の皆さんが、これから百歳まで生きるとして残り3万日あまり。これからもずっと感謝を貫き通す生き方をすること。それだけでいいと言い切っても言い過ぎではありません。それが幸せにつながる道だと私は信じています。感謝を持ち続けた先に必ずある幸せに、阿賀っ子全員、たどり着けますように。

令和6年 3月25日

呉市立阿賀小学校長 安宗 誠

各学年へ校長賞！



うらへ

